

平成 31 年 1 月 29 日

修正 1 月 30 日

特定非営利活動法人トランスペアレンシー・ジャパン

理事長 若林亜紀

世界の公務員の腐敗度ランキング －T I 腐敗認識指数（C P I）－の発表

前略

汚職・腐敗防止活動を展開する国際NGOトランスペアレンシー・インターナショナル（略称T I、本部ベルリン）は、1 月 29 日、「C P I 2018（2018 年の腐敗認識指数、corruption perception index）」を発表しました。

本部のプレスリリースの翻訳と、日本支部であるトランスペアレンシー・ジャパン（略称T I - J）からの解説をお届けします。

この指数は、腐敗とは「与えられた権限を濫用して私的利益を得ること」というT Iの定義に基づき、各国の公務員や政治家などが賄賂などの不正行為に依拠するかどうかを数値化してランキングしたもの、つまり各国の公的部門の腐敗度ランキングです。1995年から毎年発表しており、この種のものとしては、最も信頼が高いものとして世界的に知られており、日本企業の海外事業においても、外国贈賄リスク対策の資料として使われています。

今年の日本の得点は100点満点で73点、第18位（前年も73点、20位）と昨年と同順位です。一位はデンマークで88点です。最下位はソマリア(10点)です。最低限3種類のデータを必要とするために対象とならない小国もあり、今年は世界180の国と地域が対象です。

トップ5はデンマーク、ニュージーランド、フィンランド、シンガポール、スウェーデン、スイス、ワースト5は下からソマリア、シリア、南スーダン、イエメン、北朝鮮です。

CPI (2019/1/29 報道解禁) TI 本部 (ドイツ) 記者発表の翻訳

平成 31 年 1 月 29 日

作成 NGO トランスペアレンシー・インターナショナル事務局(ベルリン)

翻訳 NPO 法人トランスペアレンシー・ジャパン (黒田理事/若林)

腐敗認識指数 2018 は、多くの国で腐敗防止の努力は難航していることを示している。

分析が明らかにしているのは、腐敗は民主主義の世界的危機を増長していることだ。

本日公開されたトランスペアレンシー インターナショナルの 2018 年腐敗認識指数 (CPI) が示したのは、多くの国が腐敗を十分に抑制できないでいることが世界中の民主主義の危機を助長していることだ。

トランスペアレンシー・インターナショナルの理事パトリシア モレイアは語る。

「世界の多くの国で民主主義が危機に瀕している。原因は独裁者だったり、ポピュリストの指導者によるものだったりします。私たちはチェック&バランスをもっと強化し、市民の権利を擁護しなければなりません。腐敗は民主主義を崩壊させ墮落の連環を作り出します。ここでは民主的な組織が腐敗に侵されるため、組織が脆弱となり、腐敗をより制御しにくくなっていくという悪循環なのです」

2018 CPI は 13 の調査と専門家による査定に基づき、180 ヶ国・地域の公的機関の腐敗度を測り、0 点 (高い腐敗度) から 100 点 (非常に清潔) まで点数を付けた。結果を見るには www.transparency.org/cpi2018 を参照。

CPI 概要

対象国の 3 分の 2 以上は 50 点以下で平均点はわずか 43 点である。2012 年以降、アルゼンチンとコートジボワールなど点数を顕著に改善してきている国が 20 カ国ある。オーストラリア、チリーそしてマルタなど 16 ヶ国は顕著に悪化している。

最高点はデンマークとニュージーランドで、それぞれ 88 点、87 点である。最悪はソマリア、南スーダンおよびシリアで、それぞれ 10、13、13 点である。点数が高い地域は西ヨーロッパ、欧州連合で平均点は 66 点、一方、得点が低い地域はサブサハラアフリカ (サハラ以南アフリカ、平均点 32 点)、東ヨーロッパと中央アジア (平均 35 点) である。

腐敗と民主主義の危機

世界の民主主義に関するデータをクロス分析すると、腐敗と民主主義の健全度との関連が

見て取れる。

完全な民主主義国家はC P Iの平均点が75点であるが、脆弱な民主主義国家の平均点は49点である。混合的な政体(hybrid regimes)—独裁傾向の要素があるもの—は35点。独裁体制は最低の結果でC P Iでは平均点は30点にしかない。

この傾向を実例で挙げれば、ハンガリーとトルコは過去5年間でそれぞれに8点、9点もC P I得点を落としている。同時にトルコは“部分的に自由”から“不自由”にグレードが下がり、ハンガリーは民衆の政治的権利が、弱いため1989年の共産主義の崩壊以来の低い得点となった。これらの点数は法の支配や民主的組織の劣化を反映したものであり、それはまたこれら国での市民社会や独立系メディアの活動範囲が急激に縮小していることを反映したものである。

更に一般的に言えば、腐敗度の高い国は政権に異を唱える者にとっては危険な場所ともなりうる。実際、政府によって政治的な殺人が命じられたり許容されたりするような国のC P Iを見ると腐敗度が高い。

注視すべき国々

米国は71点で昨年から4点も下がり、C P Iのトップ20カ国から脱落した。これは2011年以来で初めてである。この低い得点は米国のチェック&バランスの制度が脅威に晒されているため、政権内の地位が高い者たちによる倫理基準の衰退にも由来する。ブラジルは昨年から2点落として35点となり、過去7年間で最低のC P I得点となった。ブラジル大統領は腐敗に終止符を打つと約束をしながらも、自分は強い権限をもって統治すると明言しているため、この国がこれまで誇ってきた民主主義を脅かしている。

「私たちの調査では、健全な民主主義の維持と公的部門の腐敗防止の間には、明らかに関連がある」とトランスペアレンシー・インターナショナルの会長デリア・フェレイラ・ルビオは語った。「腐敗は民主的な基盤が弱い場所で、多くの国で起きていることであるが、非民主的でポピュリストの政治家が権力を自らの利益になるように濫用する場所で蔓延る傾向が強い」

世界中で腐敗防止を真に進め、民主主義を強化するため、トランスペアレンシー・インターナショナルは各国政府に次のように呼びかける：

- 政治権力に対してチェック&バランスが効く、そしてそのことに責任を負うような機関を強化し、その期間が恐れることなく行動できることを保証すること；
- 反腐敗の法規制と、その施行・執行との間の履行ギャップを埋めること（訳者注、法あれども守られずではダメ、そしてそういう国も多い）；
- 市民社会や市民団体が、政治公約や政府調達、特に地方レベルでの支出を公に監視するの

を支援すること。

●自由で独立した報道機関を支援し、ジャーナリストの安全を確保し、恐怖や嫌がらせを受けることなく仕事ができるように努めること。

以上

アジア太平洋地域への本部によるコメント

アジア太平洋地域の腐敗防止活動は停滞している。進展がないのは驚くに値しない、というのも民主主義の弱い国が多く、法が未整備だったり、法があっても執行がなかったりするため、腐敗度が高いと評価される。しかしながら、よいほうから数えたトップ10、悪いほうのワースト10のいずれにも二カ国が入っている（トップ10はニュージーランド、シンガポール、ワーストは北朝鮮、アフガニスタン）ので多様性がある地域である。

インド、マレーシア、モルジブ、パキスタンで大規模な腐敗反対の民主運動が起き、選挙の投票行動にも影響した。それでも逃げ足の速い、大規模な腐敗の撲滅には至っていない。

付録 トランスペアレンシー・ジャパンから企業向けメッセージ

過去に日本企業が米国法や日本の不正競争防止法、現地法で捜査を受け高額の追徴金を払った例をふりかえると、以下のようにCPIの順位が低い国に集中し、和解金などの額も順位が低いほど高い傾向にあります。これらの国での取引には慎重に贈賄防止策を講じる必要があります。

米FCPA違反

- 2011年 日揮 ナイジェリア 罰金2億1880万ドルで司法合意 CPIスコア114位
- 2012 丸紅 ナイジェリア 和解金5460万ドル 同
- 2013 ブリジストン 中南米 罰金2800万ドル (他に部長個人も禁固、罰金)
- 2014 丸紅 インドネシア 罰金8800万ドル 89位
- 2015 日立 南アフリカ 民事制裁金1900万ドル 73位
- 2016 オリンパス 中南米 和解金2280万ドル
ブラジル 105位 ボリビア 132位 コロンビア144位
アルゼンチン 85位 メキシコ 138位 コスタリカ48位
- 2018 パナソニック米国子会社 和解金2億8000万ドル (中東) 地域平均87位

不正競争防止法違反

- 2013 フタバ産業 中国 罰金50万円 40位 (名古屋簡裁)
- 2015 日本交通技術 ベトナム等 罰金9000万円 (東京地裁)
ベトナム 33位 インドネシア 37位 ウズベキスタン21位
- 2018 三菱日立パワーシステムズ 東京地検と司法取引の合意 タイ 99位

以上

特定非営利活動法人トランスペアレンシー・ジャパン (TI-J)
電話、Fax 03-5531-2444 または 080-7026-1672

E-mail information@ti-j.org URL www.ti-j.org